

かま屋通信

毎日 いただきます

2024 年

9月号

vol 84

一二拍子に 合わせて踊る 肩の吾子

神山俳句会



「知っている」「やってみる」の次は

こんにちは、かまパンの鈴木です。今年も6月に小麦収穫を行いました。かまパンの小麦栽培としては3回目を無事に終えることができました。今回の作付けで大きく変化したことは、何と云っても栽培面積です。1回目は3 a（アール）、2回目は12 aでした。今回は大壠地・上角・福原を合わせてなんと60 a。これまで農業チームで管理していく小麦畠も、かまパンで管理す

るようになつたのです。家庭菜園とはわけが違う広さに最初は足がすくみながらも、やつてみたい気持ちが抑えきれず規模拡大に踏み切りました。

量が変われば質も変わるもので、これまでほんと手作業もしくは小型の耕運機で行つていった作業が、トラクターやショベルカーを使っての作業に変わりました。機械の操作は想像よりも複雑で、体でも頭でも

狭くなったり広くなったりするのは播種の時に土が凹凸になつてゐるからで、凹凸になつてゐるのはその前の耕うん作業の仕方が荒いからで…。このように一つの作業に手を抜くと後々痛い目を見る、というのは小春栽培に限りませんが、結果から逆算し必要な作業を適切な方法で、過不足なく行うことの大切さを痛いほど学びました。

福原地区の60aほどは旧式の刈取機と脱穀機をお借りして作業をしました。機械トラブルにより10aの小麦のほとんどを手鎌で刈ることになり、自分は一人気持ちがめげてしましましたが、助つ人のみなさんのおかげで最後まで収穫を終えることができました。暑い中で先の見えない大変な作業をしながら、いたつて楽しそうに働く姿に勇気をもらいました。本当にありがとうございました。

7月の
産食率
(食材費ベース)

内訳	率 (%)
町内 農作物町内	37% 78%
県内 農作物県内	97% 99%
県内 総計	97%

料理人見習い：大野美砂

作付け面積、大幅アップ！
3回目の小麦栽培を終えました



小麦栽培責任者
・鈴木 重明

駆けつけてくれました。0歳頃
も二人いて、赤ちゃんが寝ていて
る横で小麦を収穫し、皆で働いて
いる風景は一つの小さな村の
様でした。



産食率は前月に引き続き畠内農産物99%で着地！惜しいです。

× キリトリ



＼ 神山町内限定 ／
デザート又は
季節のドリンク券

今年4月から新規就農している『kinosu fruit farm』の松村です。この記事を読んで頂いている頃は、すだち収穫の真っ只中！ 今年は剪定が強すぎたことが大きな要因となり、収量が大幅に減る見込みです。すだち栽培も4年目に入り、これまで鹿の食害によって減少してしまった枝葉の回復、回復したと思ったら次は収穫の際、木の中心部に体を入れれず果実に触れないほど混み合っていた樹型の整えに尽力してきました。収量がしっかりと伸びてきました。これもあり、成り枝を見極め、一定の収量をあげながらも、収穫時に作業しやすいようにと剪定を行いました。「今年もしっかりと花芽がつくぞ！」と意気込んで迎えた春。花で真っ白で埋め尽くされるすだちの木には程遠く、ちらほら見える花芽。他農家さんを回っても自園地は少ない。「やってしまった」結果がついてこなかつた悔しさが残りました。

「神山全体でも花が多くついている木についていない木の差が激しいこと」「本来花芽がつくであろう成り枝に今年は花芽が付かない」という声もありました。気象状況によるものが大きいとは思うのですが、バランスをみて花芽

着ける年と着けない年とが交互にくること)等、毎年収量を上げるために試行錯誤していますが、自分自身の意識も改めて見直すきっかけとなりました。

そこで、どういう栽培方法で生産されていのか。いつ、どこで、誰が、どういった栽培



が着くように剪定を行つたりと連携し、研修時からのお客様への出荷、今後の規模拡大に向けての新規取引等を行つています。

今年4月から新規就農している『kinosu fruit farm』の松村です。この記事を読んで頂いている頃は、すだち収穫の真っ只中！ 今年は剪定が強すぎたことが大きな要因となり、収量が大幅に減る見込みです。すだち栽培も4年目に入り、これまで鹿の食害によって減少してしまった枝葉の回復、回復したと思ったら次は収穫の際、木の中

心部に体を入れれず果実に触れないほど混み合っていた樹型の整えに尽力してきました。収量がしっかりと伸びてきました。これもあり、成り枝を見極め、一定の収量をあげながらも、収穫時に作業しやすいようにと剪定を行いました。「今年もしっかりと花芽がつくぞ！」と意気込んで迎えた春。花で真っ白で埋め尽くされるすだちの木には程遠く、ちらほら見える花芽。他農家さんを回っても自園地は少ない。

「やってしまった」結果がついてこなかつた悔しさが残りました。

「神山全体でも花が多くついている木についていない木の差が激しいこと」「本来花芽がつくであろう成り枝に今年は花芽が付かない」という声もありました。気象状況によるものが大きいとは思うのですが、バランスをみて花芽

着ける年と着けない年とが交互にくること)等、毎年収量を上げるために試行錯誤していますが、自分自身の意識も改めて見直すきっかけとなりました。

そこで、どう

いった

栽培

方法で生

産されて

いるのか。

いつ、ど

こで、誰

が、どう

いう栽培

方法で生

産されて

いるのか。

いつ、ど</p

